

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2110 号

Clinical outcomes and prognostic factors of chemoradiotherapy for postoperative lymph node recurrence of esophageal cancer

(食道癌術後リンパ節再発に対する化学放射線治療の成績と予後因子の評価)

川本 晃史 (かわもと てるふみ)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

食道癌根治手術後のリンパ節再発の治療法と予後因子に関して一定の見解はない。本論文は、食道癌根治手術後のリンパ節再発に対する化学放射線療法の有用性を明らかにするために、その成績と予後因子について 2006 年 4 月から 2015 年 1 月までに化学放射線療法を施行した 57 例を対象に検討を行った。処方線量の中央値は 60 Gy であり、併用化学療法は 5-fluorouracil+Cisplatin (FP) もしくは Docetaxel (DOC) であった。初期効果判定では奏効率は 82%、2:3:5 年全生存期間は 44:37:28% であった。重篤な有害事象を認めなかった。併用化学療法が 5-fluorouracil+Cisplatin であること、もしくはリンパ節再発の領域数が単数であることが独立した予後良好因子であった。

このような症例に対して化学放射線療法が治療選択の一つとして考えられることを示した価値ある論文である。よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。